

stain of glass

ohmura daigo exhibition

大村 大悟 展

GALLERY P A R C
GRAND MARBLE

2014年6月3日(火) — 6月15日(日) 11:00~19:00
月曜日休廊 / 金曜日20:00まで / 最終日18:00まで

子供の頃、「どこにでも座るのはやめなさい」と叱られることがあった。

小さい頃は、テーブルや道端の縁石なども座りやすい高さだったのだが、尻を置いてはいけない場合や、尻が汚れる場合があった。

相対的な関係を知ることの積み重ねで、ものの価値を学んでいったように思う。

ガラスのシミ(表面)を意識した瞬間に向こう側は見えなくなる、というような意味をそれとなく出せばと考え、展覧会タイトルを「stain of glass」(=ガラスのシミ)としました。

本展覧会は、太陽の観測映像や木彫作品、鳥の糞等の資料を用いたものなど、数点の作品で構成しています。鑑賞者が、無意識に「あたりまえのこと」と捉えている身近な事象に対して、その意味の再確認、更新を促せればと思います。

展示作品 | Works

01.実と種

ナッツ、ブロンズ
2014

02. Neutral point

ジークレープリント
2014

03. untitled (内と外)

ガラス
2014

04. Neutral point

ガラス片
2014

05. subject and object

太陽の観測映像(京都大学大学院理学研究科
付属天文台)
2014

06. the case

野鳥の巣
2014

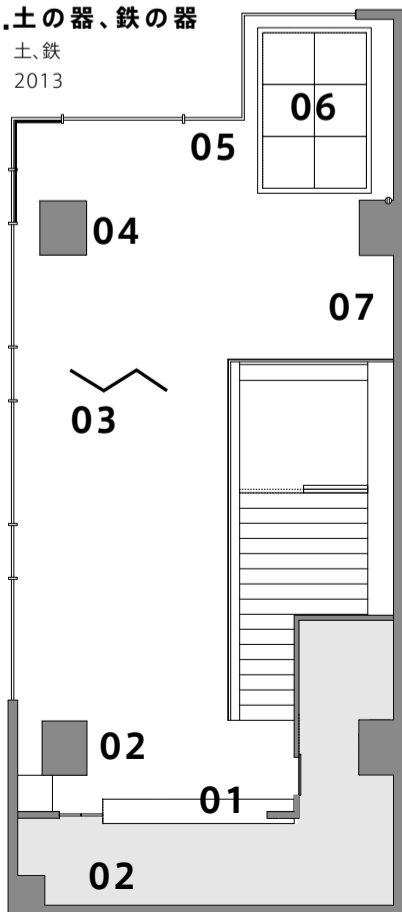
07. 道具の話

木
2013

1階入口ライトボックス部分展示作品

08. 土の器、鉄の器

土、鉄
2013



大村大悟

1984

石川県生まれ

2007

成安造形大学 造形学部造形美術科 卒業

個展

2012

道具の話:大村大悟展(gallery muku/石川) ●branch/forest (Gallery PARC)

2008

time・point of view(GALLERY wks./大阪)

2007

rich farmland(立体ギャラリー-射手座/京都)

グループ展等

2013

道具の話:大村大悟展 金沢・世界工芸トリエンナーレ サテライト(gallery muku/石川) ●京都大学花山天文台 gallery week(京都大学花山天文台)

2012

自然学 蓄 来るべき美学のために(ギャラリーアートサイト/滋賀) ●Emotion Release:reprise(ギャラリーアートサイト/滋賀)

2011

Eutectic-Eutectoid(Artislong Gallery/京都)

2010

主張展(Artislong Gallery/京都) ●sowaka clip9(gallery sowaka/京都)

2009

Emotion Release(ギャラリーアートサイト/滋賀) ●しがアートフェスティバル2009(滋賀会館) ●現代アートのコロンブスたち展(ボーダレスアートミュージアムNO-MA/滋賀) ●MASSIVE PROGRESSION(Artislong Gallery/京都) ●Magnet design exhibition tour 09(兵庫県立美術館)

2008

Art Camp 2008(サントリーミュージアム[天保山]/大阪) ●現代彫刻展vol.2(吹田市文化会館MAY THEATER/大阪)

2007

彫刻 包摂される空間(ギャラリーアートサイト/滋賀) ●艶展(gallery ryo/大阪)

2006

湖族の郷アートプロジェクト(伊豆神社境内/滋賀) ●アートナウKANAZAWA(金沢21世紀美術館)

2005

現代への視点vol.10(守山市民ホール)

「作品」とは?

手段というか、何かするときに必要になってくる行動みたいなものでしょうか。もしくは記憶や経験や考えなどをまとめておくセーブポイント的なものでしょうか。

「空間」とは?

広がりのあるところ

「見る」とは?

知ること

「読む」とは?

想像すること

「認識」とは?

知ることや捉え方そのもの

「経験や記憶」と「認識」の関係性は? 経験や記憶の蓄積によって個人のもつ認識のシステムのようなものが形作られるように思う。

何が美しいか

バランスの良い状態

何が醜いか

わかりません

何がかっこいいか

かっこうつけないこと

何がかっこわるいか

かっこうつけること

何が気持ちいいか

たまに思ってもみなかった新鮮な発見があるとき

何が気持ち悪い

いつまでも既視感の元がはっきりしないとき

何が知りたいか

いろいろなこと

一等星が消える間際。

王がかわると物差しがかわり地方や業種によって様々だった尺度がその物差しによって統一されるということがあったらしい。メートル法の国際的な尺度の基準が出来る前には、身体尺(身体の各部の寸法を元にした物差し)であちこちを測っていたわけで、今も住居や服飾など身体との関わりが深い分野では身体尺が根強く使われていたりするのだが、分業的に大きな仕事を行うには、光の速さや地球のサイズを基準にした物差しが正確で客観性もあり、便利だったのだろう。

トリの眼は人間の眼と仕組みが似ており、色や奥行きも同じように把握しているということを知った。

どこだったかの南の島国には「夜這い棒」という道具があるらしい。夜這いというのは夜、男性が女性の元へ通うというあの夜這いのことなのだが、その島の男達は日中いつも各々が独自の彫刻を施した、人の丈ほどもある棒を持ち歩いている。夜になると高床式の女性達の住居へ行き、意中の女性の居る場所の床や壁にその棒を突き刺し合図する。起こされた女性は暗闇の中手探りで彫刻を頼りに誰かを確認し、好きな男だったら(その気があれば)棒を引っ張って「OK」の合図を出しこっそり家から出る……。この話は遠い国のものと思っていたが、日本にもあったという話を聞く。年配の人達の話では、「何本か見たことがある」「もっと細くて短かった」「家の中で使うはず」「今も夜這い祭りを使う」と。現代の一般的価値観から言えば想像しにくい話だが、面白みのある話ではある。

道に迷った時には杖を倒して行き先を決める。辺りに落ちている枝や何かでも役割は果たすのだが託される事柄によってものの質が変わるように思う。